

120709 ツマグロヒョウモン

先日(120628)、「オカトラノオ」とその花を訪れる「ミドリヒョウモン」の姿を紹介しました。
その後、別の場所で同じく「オカトラノオ」の花を訪れる別種のヒョウモンチョウを見かけました。

「ツマグロヒョウモン」です！

この種は、地球温暖化の“指標種”とも言われるように分布域の北上現象が見られ、1980年代までは近畿地方以西で、1990年代以降では関東地方南部から新潟あたりでも観察されるようになりました。

現在では北関東でもほぼ定着しており、普通種となりつつあるようです。

さらに、他のヒョウモンチョウと違って“この種の特徴”として挙げられるのは、都市内でもよく見かけるとい点です。

その主な理由として考えられるのは…

幼虫が「パンジー」や「ピオラ」などの園芸種を好んで食べる、という点でしょう。

さらに、他のヒョウモンチョウのほとんどは年1回しか発生しないのですが、本種は春から秋までの間に4、5回も発生するという点も理由の一つでしょう。

このように気温も高くなりつつあり、園芸植物が豊富な都市内にも生息範囲を広げている種なのです。

◆写真①・②： ツマグロヒョウモン（♂）

◇「オカトラノオ」の花を訪れ、吸蜜しています。

◇ここでは、都市内のように園芸種のパンジーやピオラなどはありませんが、幼虫は本来の食草である「タチツボスミレ」や「スミレ」を食べているのでしょう。

◆写真③： ツマグロヒョウモン（♀）

◇この写真は別の場所で撮影したメス個体です。

（オカトラノオの花の場所では、羽を開いた姿をうまく撮影できませんでしたので…）

◇メスは、前ばねの端の青黒い色がよく目立ちますが、これは体内に毒を持つマダラチョウの仲間、「カバマダラ」に擬態していると言われています。

◇ただし、この「カバマダラ」は、かつて南西諸島南部にのみ生息していたのですが、同じく分布域を北上させつつあるとはいえ、その速度は「ツマグロヒョウモン」に比べてはるかに遅く、現状ではまだ九州南部で定着しつつあるに過ぎません。

◇ということは…

毒蝶である「カバマダラ」の姿を見ることのできない地域では、せっかくの“擬態”もその効果を期待することはできないでしょうね…





